

男女共同参画標語
最優秀賞
「男女とも 歩みあわせて
輝くとりで」
宮下拓也さん 藤代南中学校(当時)

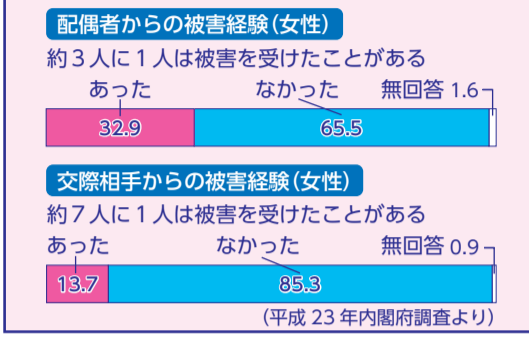
35号
平成26年3月1日発行

風

優秀賞
学生の部
「同じだね 働く力と 支える心」
「認め愛 支え愛 補い愛」
「男女の手 大きさを違えど 価値は同じ」
一般の部
「女の手男の手 合せた未来 取手から」
「役割を 担う意欲と 任せるゆとり」

DV(ドメスティックバイオレンス)はなぜ起きるのか?

「あなたは無関係と言えますか?」
本年1月に改正DV防止法が施行され、夫婦(事実婚を含む)間の暴力だけでなく、同居する恋人・元恋人からの暴力もDV法の保護対象となりました。平成13年のDV防止法施行以来、全国のDVに関する相談件数は増え続け、夫婦、家庭の枠を超えて様々な問題に発展しています。近年では、若年層における交際相手からの暴力「デートDV」が深刻化しています。母親の恋人から虐待を受ける子ども、交際のトラブルから理不尽に命を奪われる若者、繰り返される悲惨な事件。恐ろしいのは、これらの事件がごく普通の人々の日常で起こっていることです。もしかしたら、未来の被害者、加害者はあなたの身近にいるかもしれません。



暴力への感受性が低い人は要注意

暴力が悪いというのでは誰でもわかります。それでも身近な人に暴力を振るってしまうのはなぜなのでしょう?

そもそも暴力の捉え方には個人差があります。たとえば、殴る蹴るなどの身体的暴力は、ほとんどの人が暴力と捉えますが、「大声で怒鳴る」「交友関係や電話を細かく監視する」などの行為はどうでしょう。平成23年に内閣府が実施した夫婦間の意識調査では、「暴力に当たらない」ともしくは「当たらない場合がある」と答えた人が過半数を占めました。自治体等で実施したデートDVに対する意識調査でも、身体的暴力以外の暴力に対する認識は総じて低くなっています。しかし、実際には、精神

根底に潜む性別役割意識

各地で実施されているデートDVに関する調査結果に共通するのは、交際相手を束縛したり、攻撃的な対応を見せる人は、社会によって作り上げられた「男性像(一家の中心、強い、女性を守る)」「女性像(控えめ、弱い、男性に従う)」や性別役割分担意識を強く持っている傾向があるということです。逆に言えば、いかなる理由でも暴力は許されないと考え、身体的暴力以外に対しても暴力の感受性が高い人は、性別役割について男女平等指向が強いことが明らかになっています。つまり、DVにおいては、性別役割意識の違いが暴力の認識に大きく影響していると言えるのです。もちろん、DVは男性から女

性への暴力だけではありません。DVは女性が被害者という固定観念もまた、男性のDV被害者への対応をおろそかにするという弊害をもたらします。性への暴力だけではありませんが、社会的な暴力が心に与えるダメージは深刻です。さらに問題なのは、身体的暴力でさえも「暴力を振るわれる側にも問題がある」と考える人が相当数いることです。当然ながら、暴力への感受性(暴力の認識範囲)が高い人は、加害者にも被害者にもなる危険性が低く、感受性が低い人はその危険性が高いという調査結果もあります。DVの自覚なく加害者・被害者になるケースも少なくないのです。

子どもと若者を被害者、加害者にしないために

子どもと若者を被害者、加害者にしないために
とどまるところを知らないネット社会、IT機器の低年齢層への普及などで若者の生活は激変しました。コミュニケーション能力を養い、自己中心的な考え方をただす人間関係を築きにくい社会環境の中で、DVは様々な形を変えて生まれています。子どもたち、若者、そして未来の社会をDVから守るために、私たちは今、何をすべきでしょうか?

DV防止という観点から言えば、被害者の保護と加害者の処罰だけでは不十分です。若い人たちが教育がなければ悲劇は繰り返され続けるでしょう。暴力による心の傷は次世代へ連鎖し、偏った性別意識や固定観念もまた連鎖します。この連鎖を断つためには、「何が暴力か」に気づくこと、「人として相手を尊重する考え方を身につけること」をしっかりと教育、啓発できる環境を大人が作る必要があります。これは夫婦間、男女間だけの問題ではありません。人と人との関係、すべてに係わる問題なのです。(下園)



3/8の「ゆめあかり」、ぜひご参加ください!

みんなができることから、
取手を元気に!
ゆめまっぶの会

2010年10月の結成以来メディアにたびたび取り上げられている取手市ボランティアグループ「ゆめまっぶの会」。本会の4名の主宰者・両宮由利子さん、佐藤良江さん、小沼定子さん、鴫田優子さんにお話を伺いました。

家族や参加者の皆さんと協力して大きな力に

こういった大規模なイベントをたった4人の女性で動かすのは本当に大変だと思いますが、小沼さんによると「その日その場に集まった皆さんが即戦力となり、様々な役割を自発的に担い、協力をしてくださってイベントが実現します。また準備段階から手を差し伸べてくださる人や店舗も増えました。何かやりたいけど何をしようか分からないという人達に、この会が行動を起こす機会を提供しているのだと思います。企画は4人ですが、大勢の方と協力して成し得たことです。」ということでした。

4人の皆さんの日常は、主婦業・仕事・ゆめまっぶの会運営と、多忙を極めています。ご家族の反応を伺いました。「家族は協力者であると同時に、外から厳しい目で私達を見てくれるアドバイザーです。主人からは、常に初心を忘れるな、と言われていきます。」と佐藤さん。「夜中まで準備にかかる時もあり、家族の理解なしには成り立ちません」と小沼さん。「雑談から生まれるアイデアが形になるプロセスが楽しいです」とおっしゃる鴫田さんの3人目のお子さんは、まだ赤ちゃんです。ご主人の協力を得ての活動です。

パワフルな4人の皆さんと接して、市民活動の分野にも女性の進出が顕著なことに、同じ女性として誇らしさと尊敬の念を覚ええました。4年前に芽吹いた「ゆめまっぶの会」という小さな種は、その木陰で多くの人に元気を与えてくれる大樹に育ち、ゆめに向かう道しるべとなって成長を続けています。(沼田)

ゆめまっぶの会では、3月8日(土)市役所藤代庁舎前の広場にて開催される「ゆめあかり3.11」の当日ボランティアスタッフを募集中です! 12時ごろから20時ごろまで、途中参加もOKだそうです。お問い合わせは、ゆめまっぶの会事務局(72-7166)までどうぞ!

男女共同参画社会を職場から スタッフの「和」で夢やアイデアを実現!

株式会社 江戸てん 穴沢あけみさん

近年、「和」は世界的ブームのキーワードのひとつになっています。今回は、取手市内で「和」をテーマとした半纏・和柄小物等をデザイン、企画、製作、販売をしている「江戸てん」取材しました。代表の穴沢あけみさんは、二人の子を持つ母親と会社経営者という二足のわらじで頑張っている女性です。



色とりどりの「和」デザインに囲まれて。

女性が働きやすく、力を発揮できる職場に

「江戸てん」は10名の女性スタッフからなる職場です。その多くが家に帰ると「お母さん」で、スタッフの子供は高校生からゼロ歳児まで総勢22名もいらっしやるそうです。そんな「江戸てん」は、やはり女性が働きやすい職場でした。まず、

勤務時間は9時から16時までとなっており、仕事が終わってからはスパーなどでゆっくり買い物をして帰宅できることを目指しています。また、スタッフの家族に不測の事態があったときは、そのスタッフの仕事を他のスタッフで協力しあえるような体制も整えられています。経営者である穴沢さんは「社員を雇うということは、本人だけでなく、その家族もまとめてサポートすることだと思っています」と語ってくださいました。一方で、女性スタッフの皆様をとても頼りにされているそうで、特に、アイデアを形にしていく過程では、何かを作り上げようとする女性スタッフのパワーがとて心強いので、スタッフのアイデアをよく聞くようにしている、とのこと

アイデアや夢を実現させるために

穴沢さんは、起業前はIT企業にお勤めでした。その時の取引先へホームページ作成等を企画・提案していく過程で個人として仕事をしたいのが始まりで、後に起業を決意されたそうです。家族や友人の支援も有り順調に設立し、前職での経験を活かしてインターネットを利用した通信販売を始めました。実家近くの千葉県佐倉市に設立した後、取手市に本社を移し、現在

は取手市内で製造から販売までを行っているそうです。「和」テイストを取り入れた商品は作務衣(さむえ)・甚平(じんべい)・半纏(はんてん)・雪駄(せつた)・Tシャツ・手ぬぐいなどなど、多種多様を極めます。デザインも日々増えていくので、取り扱う商品の総数は穴沢さんも数えきれないほど。デザインのオーダーも受け付けているそうで、全国各地からお問い合わせがあるとのことでした。

この仕事の醍醐味を感じるのには、やはりお客様からの喜びの声を聞いた時や、スタッフ全員でアイデアを出し合った企画が実際に商品になった時など。ただ、時には経営者としての重圧を感じたり、お客様から厳しいご意見をいただくことも。そんなときは、同じ女性起業家のお友達と色々な意見交換などをして支え合っているそうです。

「風」を一緒に作りませんか

この男女共同参画情報紙「風」は、市民編集員の方と取手市が協力して企画・取材・原稿作成・編集などを行っています。「風」の発行にご協力いただける編集員の方を募集します。詳細や応募方法については、取手市 秘書課までお問い合わせください。(お問い合わせ先は左参照) 応募お待ちしております!

◆◆ 相談窓口のご案内 ◆◆

- 取手市男女共同参画相談
市が実施する事業や施策について男女共同参画に悪影響を及ぼすようなことがあった場合、男女共同参画苦情処理員がご相談を受け付けます。
問い合わせ 取手市秘書課 内線2927
- DV(ドメスティック・バイオレンス)相談
配偶者や恋人等からの暴力で悩んでいる方の相談を家庭相談員が受け付けています。
問い合わせ 取手市子育て支援課 内線1347
取手警察署生活安全課(24時間対応) 77-0110

ご夫婦で専業農家を頑張る 天津美津子さん・栄一さんご夫妻

私たちが普段口にしてる食べ物を日々作っていただいているのが、農家の皆様です。今回は、代々続いてきた専業農家で頑張るご家族を取材し、農業の楽しさ、現在の課題、今後の抱負について、二人三脚で農業経営に携わっている旦那さまとご一緒にお話をお伺いしました。

「農家に嫁ぐ」という特別な違和感はありませんでした」と語る奥さま。奥さまの実家も市内の専業農家だったこともあり、農業経営の内容は知っていたので、特別な苦労をすることはなかったそうです。

天津さんの農業経営は、稲作とトマト(ハウス栽培)がメインで、年間作業スケジュールは、稲作は春から秋(種まき、育苗、田植え、除草・防除、稲刈り)、

トマトは秋から翌初夏(種まき、接木、定植、収穫)で、稲作の田植えとトマトの収穫作業が重なる春が一番忙しくなる時期とのことでした。

「稲作は旦那さまが主体、トマトは奥さまが主体」と大雑把な分担はできているとのことでしたが、帳簿管理は奥さまの役目とのこと、「かあちゃんにはネバリ強く、細かい作業もできるの、いないと我が家の農業経営は成り立たない」と旦那さまの発言でした。

専業農家を守る喜び

農業の喜びとは、と尋ねると、「喜びは、何と言っても、自分たちで作った間違った安全・安心なものを食べられるし、同時に人にも提供できること。また、相手が植物なので日々生長していくのを見るのが楽しみです。」という答えが返ってきました。

苦労を強い挙げれば、相手は生き物であり、病害虫の発生、気象の変化、装置の障害など、不測の事態への対応がある中で、家族全員で家を離れるような休みが取れないことぐらいいとのことでした。そんなお仕事の中でも、「毎年トマトの収穫が終わるとハウス組合の親睦旅行があるので、それが楽しみ」と、楽しく語ってくださいました。

これからの農業への期待

近年の農業は、農業従事者への希望者が少ないこと、空き田畑が多くなっており農地として保存が難しいこと、重油・ハウス建材などの値上りなど、数多くの課題を抱えているそうです。個人として対応できること

また、旦那さまからは、「1年を通じて仕事はあるが、比較的ユツタリできる時期は10月から11月で、この時期は定植プランを練るのが楽しい。トマトづくりは40年になるが、市場・消費者のニーズは常に変化していると感じる。パブル時は高価なものもよく出たが、最近は品質と価格のバランスを要求される傾向が強く、ニーズにあった品種の生産にも常に注意している」と、農業経営自体も楽しんでいらっしやるようでした。

「和」テイストを取り入れた商品は作務衣(さむえ)・甚平(じんべい)・半纏(はんてん)・雪駄(せつた)・Tシャツ・手ぬぐいなどなど、多種多様を極めます。デザインも日々増えていくので、取り扱う商品の総数は穴沢さんも数えきれないほど。デザインのオーダーも受け付けているそうで、全国各地からお問い合わせがあるとのことでした。



毎日かわいがっているトマトと。

編集後記

東京五輪決定をきっかけに日本の良さを再発見する機運が高まっています。注目を集めた「おもてなし」もそうですが、人と周囲を思いやる心は、世界に誇るべき日本の精神文化であり、伝統です。私たちに当たり前でも、外国人の人には驚くことが多いようです。考えてみれば、男女共同参画の根底にあるのも、「人を思いやり尊重する心」改めて原点に立ち返ってみると、日本ならではの男女共同参画のあり方が見えてくるかもしれません。(下園)

発行日 平成26年3月1日
編集発行 取手市 秘書課
編集協力員 平塚恒夫/下園淳子
沼田久美/土屋雅則
〒302-8585 取手市寺田5139
TEL 0297-74-2141
FAX 0297-73-5995
H・P http://www.city.tatebayashi.jp/isho@city.tatebayashi.jp
表紙絵 有本 唯